**R３．12月**

**トビイロウンカ報告会**

**に関する**

**事前質問・要望**

**米価が毎年1～2割下がるなか、必要経費（燃料、農薬、肥料、資機材）は毎年高騰している。**

**一方で、奈良盆地の中央にあり県下においても農地面積割合が一番高い三宅町において、水田等の多面的効果（田園景観・洪水緩和・温暖化防止・生物多様性等）が発揮され、コロナ禍において地方移住の機運が高まる中、「デジタル田園都市構想」や「スーパーシティー構想」のもとでも農業は重要であると思料する。**

**そのような認識のもと、産業政策又は地域政策として農業に対する長期ビジョン必要性とともに、今回の報告会について感じるところ次の通りであるので、真摯にお答え頂ければ幸甚である。**

1. **実証とは、仮説を立てそれを検証する行為である。本事業における「仮説」とは何か？**

**【解説】町が単独事業で行う限りは、トビイロウンカ防除に関し、「町の地域特性」を追求することに唯一の正当性があると認識するものであるが、それが示されることなく進められており、税の無駄使いを危惧するものである（ドローンの器材や農薬の有用性を検証するならば町で実施する必要ななく、機材メーカー又は製薬会社が行えばいいこと）。**

1. **ドローンによる実証を行う限りは、（実証後、有用でないと判断されることがあっても）実証後、それを普及し深化する等見込みがあるはずであるが、その見通し如何？**

**【解説】「スマート農業」の展開や、俄かに提起されている「スーパーシティ構想」の一環として等将来へのその技術の適用計画性があるならば理解できなくもないがそのような説明はされてこなかった。**

1. **2か年計画とのことであるが、一年目をみるに、役に立つのは、ドローンの飛行前に行った「防除研究所によるほ場調査」のみである。農家にとっては、害虫の発生等毎日神経を尖らせている状況であり、ほ場調査後、直ちにリアルタイムでそれを公表されたい（特定されるほ場の情報はともかく、大事○○で〇月〇日トビイロウンカ何匹発生等）。**

**【解説】トビイロウンカの防除は、田植え期の箱施用剤と、本田では第二期若齢幼虫の発生時（8月上旬、下旬）が有効である。本田での2回防除が必要か否かは毎日の観察に依るしかないものであり、ほ場調査の情報は、個別農家の情報と共に重要であり、重ね合わせることで有用な情報となる。**

1. **今回の実証は、町単独事業であるとのこと。ならば、何故、今回の報告会は、防除所の方が講師なのか疑問である。実施主体は町でありところ、他者が支援することはあっても、町が主体となり責任をもって地域特性を踏まえて、一連の報告を行うのが筋である。**

**【解説】奈良県全体に裨益する内容であるならば、県単事業で行えばいいのであって、財政状況が厳しい町単で実施する理由はない。まして、水利施設の老朽化等に対する農家負担について条例も無い上に、三宅町のみ3割（適正化事業は他は1割）を強いる中にあって、このような無駄とも思える事業を実施する余裕はない。実証ほ場対象の農家のみが裨益する今回の実証よりは、「トリフルメゾピリム」を含む箱粒材を団体購入しそれに対して農家に補助した方が、税金を使用する視点から余程不公平が無く有効であると思料するが如何。**

1. **JA奈良によるドローン防除のこれまでの知見が活かされているのか如何？**

**【解説】JA奈良に限らず、ドローンによるウンカ防除については、液剤ではあまり効果がみれず、粒剤の開発が求められているとの見解が数年前からあり、これまでの知見を踏まえた実証となっているのか疑問がある。**

1. **町に期待することは、実証や検証ではなく、農家情報と研究情報を集積した「情報のプラットホーム」である。例えば、トビイロウンカが発生しているのは、町のどこの大事で発生しているとか、今年はこういう病気が発生しているとか。更には、他町ではこんな対策があるとか三宅町に情報が集積するしくみである。**

**【解説】イネの防除に関しては、トビイロウンカだけでなく、例えば今年度は、8月上旬の雨継続により、三宅町でも「イモチ病」や「モンガレ病」も小さいが発生した。更には、「バクテリアによる腐れ」もあり、トビイロウンカを気にしていた農家としては、見分けがつかない現象が見受けられ、「中部農林」や「防除所」にお願いする局面もあった。特に、「ジャンボタニシ」の食害及び対策に関する町の情報も重要である（浅水管理、寒冷期の耕運、水路の泥上げ、有効な農薬の啓発＜高価なスクミンの代わる「つばき油」の魚毒性＞）。**

1. **米作の営農技術を標榜するならば、地産地消で米の消費拡大を、単一農協に甘んじるＪＡ奈良とともに推進すべきである。例えば、韓国の味を改良したキムチのように、米粉を利用し香辛料を生かした「フォー」をを三宅町発で日本風にアレンジできないか。**

**【解説】米が余り来年度も青森県の面積程、減反する必要があるとの見通しがある中、町では、減反が殆ど実施されておらずフリーライダー（ただで、その恩恵を被っている農家）が多く、高収益作物への転換も含め、米の消費拡大を考える責任がある。不断の努力のもと、例えば、ＪＡ泉州では、米価は高止まっている。**

1. **何をするには三宅町の宿命である「排水改良（内水排除）」を意識して進める必要がある。上流の田原本町ではどんどん進められており、その被害を受ける傾向に三宅町はあり、現に遠隔監視した準用河川　但馬川の水位データを科学すると近年洪水ピークは立つ傾向にある。**

**【解説】三宅町においては。施設園芸や自給率の低い小麦・大豆等高収益作物を作付けするにしても排水が悪く多大な困難が伴う。宅地化するにしても同様であり、内水排除を推進することは、大和川の３支川が流れる川下の町が有する発展のための宿命である。**

**県の方（防除所）も出席されるので、以下に要望をお伝えします。**

1. **【防除所へ】従来型で安価な「オリゼメートオンコルは、トビイロウンカにも有効であるが有効期間が短いので、私用する場合は、本田で早く防除すればいい」ということの真偽如何（ＪＡ奈良の個人見解）。**

**【解説】米価は下がり必要経費が上がる一方でフルスロットルも高価である。**

1. **【防除所へ】桜井市に一カ所しか予察等が無いなか、複数個所の予察灯等が必要でないか。**

**【解説】地域特性があるので三宅町単独で今回の実証を開始したのであれば、平場・中山間地等少なくとも複数個所での設置が必要と思料する。因みに、山口県では80カ所程度あるとの情報もある。**

1. **【中部農林への要望】「７月から9月の3か月間」についは、遠隔診断ができるようにお願いする。スマホで画像を送ろうにも、県で容量制限がかかりできないことであったが、この時期についてはその制限をはずして頂きたい。**

**【解説】防除所は忙しいと思われるので、確立した技術情報の指導については「中部農林」に依るところが大きい。しかしながら、農家が必要とするときに、彼らも多忙であり中々現地に出向けない。**